



日本イスペインヤ学会
Asociación Japonesa de Hispanistas
会報第9号 / Boletín Núm.9
2005年6月12日 / 12 de junio de 2005

事務局

〒480-1198 愛知県愛知郡長久手町
熊張茨ヶ廻間 1522-3
愛知県立大学外国語学部気付
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajh/>

編集部

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学びわこ・くさつキャンパス
山崎信三研究室 Tel:077-561-4698

巻頭言

小林 一宏（上智大学 外国語学部教授）

昨年の秋に新たな『和西辞典』が、次いで今春には姉妹篇の『西和辞典』が刊行された。これで通称コンサイス版に限って言えば西和が5点、和西が2点となった。折りしも今年は *El Quijote*、否 *El Quixote* の前篇が世に出て400周年。日本のイスペインスタスにとってはこの西語文学の至宝の誕生と併せて祝うに足る慶事である。先輩格の英・独・仏に比べればまだまだとは言え、日本におけるイスペイン語（以後、西語）及び西語圏研究の着実な成長の確かな証しであると思えることに異論はないと思う。

私事になるが、かつて大学進学を控えて西語を選んだ時、同級の友人達から揃って怪訝な顔をされた。西語なんか習ってどうするんだというもっともな反応だった。当時、西語は「貿易語」と綽名され、ある著名な言語学者からは西語は学問や文化とはあまり縁のない言語と書かれる有様だった。それでも一旦決めた以上は迷いはなく、東京外国語大学の受験に落ちての浪人中も、受験勉強の合間を縫って東京商工会議所主催の西語講習会に参加した。受講者は全員が商社マン、高校を出たての若造はここでもまた怪訝な顔で見られた。そして2度目の挑戦で上智大学に入学はしたものの、いま記憶にあるのは永田寛定と笠井鎮夫両先生の文法書2点と、ページ数こそ多いものの中味は辞書ではなく、毎週 Ayúcar 先生から配られるプリントだった。入学の翌年には高橋正武先生の西和辞典が出たが、いまから思えばこれが西語圏研究の今日に至る大きな前進の第一歩だったのではないだろうか。

西語と私の出会い時の学習環境は要約以上のようなものだったが、それから見れば西和と和西が共に学生の方に選択権がある形で店頭に並ぶ今日のさまは驚きに値する。発足（1955）から今年でちょうど半世紀になるイスペイン（語）学会の発展は、同時にこうした日本の西語圏研究の確かな歩みでもあった。

ただここで自画自讃に終わっては更なる発展に繋がらない。そこでこの場を借りて前々から西和辞典に関して思うところを記し、会員諸兄のご意見をうかがえれば幸いである。

第1点は、1990年以降刊行の西和辞典に見られる発音記号付記の是非である。いま手許にあるRAE、María Moliner、Oxford Avanzado、Universidad de Salamanca、Larousse Escolar等を見ると、いずれにも発音記号は付いていない。私はこのことを以下の理由から卓見と考える。

1. boca/vaca/danza/guerra などは定冠詞を伴えば、語頭の子音は発音記号が示すのとは異なった音になる。西和の1点を除いて他はb/d/gに関しては発音記号で破裂音と摩擦音を区別しているだけに、現状のままで果してよいのだろうか。
2. zamba/cenote/cipote/zopilote のような americanismo の発音記号にθを見ると苦笑を禁じえない。こうした americanismo をθで発音するのは西語人口の内、どのくらい居るのだろうか。万事多数決がよいとは言わないが、これまた気になることである。
3. 揺れが大きいθとλについては発音の項で説明はあるものの、個々の単語に付けられた発音記号はその内的一方だけである。これは西語の現状を思えば片手落ちであり、しかも学習者に seseo と yeísmo について混乱と無用の偏見をあたえるのではなかろうか。

そもそも綴りと発音がほぼ一致する西語では、教員の適切な説明があればアクセントの位置も含めて発音記号は不要である。百歩譲って独習者あるいは英語などからの借用語の場合には必要ではないかという声があるかも知れない。しかし、多種多様な教材が溢れる今日、一般にさほど馴染みのない発音記号を取って頼みとする人がそうそう居るとは思えない。また借用語の発音は定着の度合いや発話者の教養その他の要因が働いて容易には決められないのではないか。いずれにせよ、西語に限っては発音記号の付記によって辞書の価値が上がるとは思えないし、逆にないからといって下がるとも思えない。下がるのは価格の方であって、これは学習者の利益に繋がるのではないか。編者と出版社にお考え頂きたいところである。

第2点目は、辞書の巻末にある動詞の活用表中の caber/haber/poder の命令形についての疑問である。果してこれら3つの動詞には命令形があるのだろうか。あるいは古語としての用法では命令形はあるのかも知れないが、今日の西和はたとえ表題に謳ってはいなくとも「現代西語」を標榜としている以上、cabe/cabed/he/habed/puede/poded という変化形は理解に苦しむ。因みに、西和5点の内では haber の命令形の箇所を空白にしているのは1点だけである。

第3点目は、今後新たに生れるであろう西和への展望である。個人的な希望を述べれば、一部の英和がすでに具えている百科事典的な性格を持った西和の誕生である。言語は決して言語だけに終わらない。言語を取り巻くさまざまな事象の中で初めて生きてくる。そんなことをページをめくる度に少しでも感じさせてくれるような西和の実現を強く期待したい。

2005 年度日本イスパニヤ学会 第51回大会

開催日：10月8日(土)～9日(日)

会 場：神田外語大学（千葉市美浜区若葉 1-4-1）

※研究発表申し込み詳細は別便にてご案内済み

日本イスパニヤ学会 2004 年度第3回理事会

2004 年 11 月 13 日（土）11:00～12:00 南山大学D31 教室

出席者：大高保二郎、片倉充造、川上茂信、木村琢也、斎藤文子、佐竹謙一、清水憲男、角田哲康、中岡省治、西川喬、堀田英夫、山崎信三、Antonio RUIZ TINOCO。

会計監査：寺崎英樹、三好準之助。大会委員長：木下登。

庶務：糸魚川美樹。委任状：柳沼孝一郎

【審議事項】

- 0) 議事録確認 - 2004 年度第 2 回理事会議事録了承。
- 1) 入会希望者了承
- 2) 会計報告、会計監査報告
- 3) 事務委託先案
- 4) 2005 年度予算案
- 5) 著作権規程 (案)
- 6) 「投稿規程」「編集委員会に関する申し合わせ」「イスパニカ審査要項」
- 7) 会則の変更: 「機関紙」を「機関誌」と修正することの確認
- 8) 次回大会開催校: 未定のため、開催してもらえる所を総会で募ることの確認
- 9) 総会議案検討
- 10) その他

日本イスパニヤ学会 2004 年度総会

2004 年 11 月 13 日(土) 13:00~14:00 南山大学 DB 1 教室

- 0) 議長選出: 坂東省次会員を議長とすることが拍手で承認された

【報告事項】

- 1) 理事、会計監査の紹介
- 2) 新入会員紹介 (計 24 名は会報前号に掲載済み)
- 3) 逝去者 (1 名は会報前号の退会者に含む)
- 4) (財) 日本学会事務センター破産に伴うその後の対応について:
学会誌バックナンバーも返却を受けた / 事務センター破産により影響を受けた学会対象の文部科学省科研費 3 種に申請、大会開催に 70 万円の交付が決定された / 会員名簿改定は、事務センターに発注までいったが破産のため中断、新しい事務委託先が決まってから作成するかどうかも含めて検討したい旨報告
- 5) 日本学術会議に役員変更を届出た / 地域研究学会連絡協議会から情報提供を受けアンケート回答をしている / 2004 年 7 月メキシコでの第 1 回各国イスパニア学会会長会議に堀田会長が参加した (会報前号にその報告掲載済み) / Instituto Cervantes に情報提供し、HP 上に掲載されている旨報告
- 6) 次回大会開催校: 未定のため開催してもらえるところがあればお教え下さい
- 7) 学会誌: 第 48 号では論文 4 本掲載、創刊号からの総目次掲載を予定

【審議事項】

- 0) 会長の承認 (会則第 9 条第 1 項): 堀田会長兼代表理事を承認
- 1) 会則の変更 (会則第 14 条): 以下の変更が異議なく了承された
改訂前: 第 2 条 (組織) 「本会は事務局を財団法人日本学会事務センター (〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-19 学会センター C21) におく」
第 4 条第 2 項、第 6 条第 1 項、第 8 条第 7 項「機関紙」
改訂後: 第 2 条 (組織) 「本会は事務局を愛知県立大学外国語学部 (〒480-1198 愛知県愛知郡長久手町熊張茨ヶ廻間 1522-3) におく」

第4条第2項、第6条第1項、第8条第7項「機関誌」

付則に「2004（平成16）年11月13日改訂。」を追加

- 2) 会計報告（会則第13条）、会計監査報告：角田会計理事より2003年度会計報告（別紙）を受け、寺崎監査より「報告書が適正に作成されている」との報告があり、承認
- 3) 会費の確認（会則第6条第4項）：通常会員：（国内）8000円、（海外）9000円
賛助会員：15000円
- 4) 事務委託先：ワーキンググループにより委託先検討中との報告。継続審議
- 5) 2005年度予算：角田会計理事より2005年度会計案（別紙）が提出され、異議無く了承
- 6) 著作権規程：『イスパニカ』バックナンバーCD-ROM化のため、著作権規程および付帯決議（別紙）の提案、種々審議の結果、異議無く了承。学会HP掲載し、12月13日まで第3条第2項について別の扱いを希望する著作権者からは、文書による申し出を受け付ける
- 7) 学会誌バックナンバーの処分について：CD-ROM化によりバックナンバーが事実上不要になる。毎年十数万円の保管料を支出してきたが、それよりは処分したい。所蔵がある大学図書館に欠号補充を優先して寄贈を行った。残部は処分との提案があり、異議無く了承。大学・研究機関等で所蔵の希望があれば、2004年12月までは対応。ただし、送料・梱包代負担はお願いしたい

日本イスパニヤ学会著作権規程

（目的）

第1条 本規程は、学術の振興と発展のために、日本イスパニヤ学会（以下「学会」という）が編集する著作物（電子媒体を含む）の著作権および編集著作権の取り扱いについて規定することを目的とする

（著作権）

第2条 学会が編集する著作物に掲載された論文その他で、当該著作物を特定できる方法でその氏名を明示してある著作物の著作権は、当該著作物の著作者に帰属する

2. 学会が編集する著作物で、著作者各人の創作した部分に対応する氏名を特定または明示しないものの著作権は、学会に帰属する

3. 学会が編集する著作物に掲載された個々の著作物の著作権について、別段の定めがある場合は、前二項の規定にかかわらずその定めるところによる

4. 学会が編集する著作物の編集著作権は、学会に帰属する

（著作物利用の許諾）

第3条 学会が著作権および編集著作権を有する著作物の全部または一部の引用・転載、複写および媒体の変換などについて、会員あるいは第三者から許諾を求められた場合は、これを理事会が決定する

2. 学会が著作権を有しないが、学会が編集する著作物に掲載された論文その他の著作物の全部または一部を複製することおよび公衆送信・伝達すること（引用・転載、複写および電子媒体化など）は著作権者の許諾を得なくても理事会が方法、手段、費用等を定め許諾できることとする。この規定は、学会による公表後において当該著作者が自らの著作

部分について複製、媒体変換および公衆送信・伝達すること、また第三者にその許諾をすることを妨げない

(既出版著作物の取扱い)

第4条 第2条第3条各項の規定は、学会が編集した著作物で、すでに公表された著作物についてもこれを適用する

(著作権者の責任)

第5条 学会が編集する著作物に掲載された個々の著作物の内容については、当該著作者が責任を負うものとする

(規程の改廃)

第6条 本規程の改廃は、理事会で起案し、総会で承認されるものとする

付則

2004年11月13日総会承認

2004年12月13日施行

2004年度日本イスパニヤ学会第50回 学会創立50周年記念大会*

[期日] 2004年11月13日(土)・14日(日)

[会場] 南山大学 名古屋キャンパス

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 TEL 052-832-3111

大会実行委員長 木下 登

第1日(13日)

理事会 11:00-12:00 (D棟3階、D31教室)

総会 13:00-14:00 (D棟地階、DB1教室)

研究発表

<言語> DB1教室

司会 木村琢也

14:10-14:40 和佐敦子「感情を表す文における叙法選択について
ー認知的観点からー」

14:40-15:10 二宮 哲「{hay / estar} + SN {indefinido / definido}」

ー休憩ー

15:30-16:00 結城健太郎「移動動詞を含む文における語順ー特に経路融合型と様態融合型の違いから」

16:00-16:30 下田幸男「不定詞補文と定型節補文の交換について。CREERとDECIRの場合」

<文学> D 3 1 教室

司会 斎藤文子

14:10-14:40 岡本淳子「アントニオ・ブエロ・バリェホの *El tragaluz* における共同的記憶の書き換え」

14:40-15:10 三倉康博「『トルコへの旅』におけるオスマン帝国のイメージ」
—休憩—

司会 片倉充造

15:30-16:00 高野雅司「オクタビオ・パスとスペイン内戦：詩人の使命」

16:00-16:30 大楠栄三「パルド・バサン 新郎の名が明かされない『新婚旅行』(1881年)の書き出し」

<スペイン語教育> D 3 3 教室

司会 西川 喬

14:10-14:40 泉水浩隆「中級スペイン語読解クラス—ディクテーションとその応用」

14:40-15:10 塚原信行「コンピュータを利用したスペイン語作文学習環境の構築について」
—休憩—

15:30-16:00 Escandón, Arturo, "Perfeccionamiento de un cuestionario sobre la resistencia al aprendizaje o a la educación de los estudiantes japoneses del tercer ciclo"

16:00-16:30 Rubio, Raquel, "Enseñanza interactiva en las clases de español como lengua extranjera"

学会創立50周年特別講演会 DB 1 教室 16:50-18:00

講演者 Excmo. Sr. D. Luis Goytisolo

演題 "La novela española del siglo XX"

小説の朗読 Señora Da. Elvira Huelbes

司会 木下 登 大会実行委員長

学会創立50周年特別講演にはスペイン教育文化省のグラシアン基金を受けました。

懇親会 18:30-20:00 (南山大学教職員食堂)

休憩室 D 3 2 教室

書籍展示会室 D 3 4 教室

第2日目(14日) DB 1 教室

研究発表

<言語>

司会 中岡省治

9:20-9:50 村上陽子「ボゴタの教養スペイン語にみられる英語借用語の定着度について」

9:50-10:20 鈴木恵美子「植民地時代文書（16～18 世紀）における単純過去形と現在完了形」

10:20-10:50 水戸博之「B.A.C.版 Nuevo Testamento Trilingüe における接続法未来」

—休憩—

司会 川上茂信

11:10-11:40 宮本正美「電子辞書のためのスペイン語動詞活用形の展開と不規則動詞の分類」

11:40-12:10 木村琢也・泉水浩隆・豊丸敦子「HLH*音調とポーズの関係～ニュース記事の朗読音声を資料として～」

12:10-12:40 福嶋教隆「接続法の教授法について」

<文化> D31 教室

司会 竹村文彦

11:10-11:40 眞島友一「El Corrido にみるチカーノの叫び」

11:40-12:10 González, Darío, "El carnaval en Amerindia"

12:10-12:40 金城宏幸「言語問題の一世紀におけるフィリピンのスペイン語—ナショナル・アイデンティティの形成をめぐって」

以上

*本大会は、平成 16 年度 文部科学省 科学研究費補助金「特別研究促進費」の補助を受けて開催しました。

L CONGRESO de la *ASOCIACIÓN JAPONESA DE HISPANISTAS* "Cincuentenario de la fundación de la Asociación"

Fecha: sábado 13 y domingo 14 de noviembre de 2004

Lugar: Universidad Nanzan (Campus de Nagoya)

Yamazato-cho 18, Showa-ku. Nagoya 466-8673. Tel. 052-832-3111

Dirigirse a: Prof. Noboru KINOSHITA.

P R O G R A M A

Sábado, 13 de noviembre

11:00-12:00 Reunión de la Junta Directiva (D31)

13:00-14:00 Asamblea General (DB1)

Ponencias

Grupo de Lingüística (DB1)

Moderador: Takuya KIMURA

14 : 10— 14 : 40 Atsuko WASA: "Alternancia modal en las oraciones que expresan sentimiento -- Análisis desde el punto de vista cognitivo--".

14 : 40— 15 : 10 Satoshi NINOMIYA: "{hay / estar} + SN {indefinido / definido}".

Descanso

15 : 30— 16 : 00 Kentaro YUKI: "Sobre el orden de las palabras en oraciones con los verbos de movimiento --Comparación de los verbos de desplazamiento con los verbos de manera de moverse--".

16 : 00— 16 : 30 Yukio SHIMODA : "La alternancia entre infinitivo y verbo flexionado en las completivas de CREER y DECIR".

Grupo de Literatura (D31)

Moderadora: Ayako SAITO

14 : 10— 14 : 40 Junko OKAMOTO : "Reescritura de la memoria colectiva en *El tragaluz* de Antonio Buero Vallejo".

14 : 40— 15 : 10 Yasuhiro MIKURA : "La imagen del Imperio Otomano en el *Viaje de Turquía*".

Descanso

Moderador: Juzo KATAKURA

15 : 30— 16 : 00 Masashi TAKANO: "Octavio Paz y la Guerra Civil de España: la misión del poeta".

16 : 00— 16 : 30 Eizo OGUSU : "¿Por qué no se revela solamente el nombre del novio?: sobre el incipit de *Un viaje de novios* (1881) de Emilia Pardo Bazán".

Grupo de Didáctica (D33)

Moderador: Takashi NISHIKAWA

14 : 10— 14 : 40 Hirotaka SENSUI : "Clase de lectura de nivel intermedio de español: dictado y su aplicación".

14 : 40— 15 : 10 Nobuyuki TUKAHARA : "Acerca de la creación del entorno informático para el aprendizaje de la composición en español".

Descanso

15 : 30— 16 : 00 Arturo ESCANDÓN : "Perfeccionamiento de un cuestionario sobre la resistencia al aprendizaje o a la educación de los estudiantes japoneses del tercer ciclo"

16 : 00— 16 : 30 Raquel RUBIO : "Enseñanza interactiva en las clases de español como lengua extranjera"

16 : 50— 18 : 00 Conferencia Conmemorativa del Cincuentenario (DB1)

Excmo. Sr. D. Luis Goytisolo

"La novela española del siglo XX"

Recital: Señora Da. Elvira Huelbes

Moderador: Noboru KINOSHITA

La realización de la conferencia conmemorativa del cincuentenario fue subvencionada por el Programa "Baltasar Gracián" del Ministerio de Educación y Cultura de España.

18 : 30—20 : 00 Cena de amistad (Comedor de profesores)

Sala de descanso (D32)

Exposición de libros (D34)

Domingo, 14 de noviembre (DB1)

Ponencias

Grupo de Lingüística

Moderador: Shoji NAKAOKA

9 : 20— 9 : 50 Yoko MURAKAMI : "Sobre el grado de integración de los préstamos léxicos del inglés en el *Léxico del habla culta de Santafé de Bogotá*".

9 : 50—10 : 20 Emiko SUZUKI : "Pretérito perfecto simple y pretérito perfecto compuesto en los documentos coloniales hispanoamericanos (siglos XVI a XVIII)".

10 : 20—10 : 50 Hiroyuki MITO : "El futuro de subjuntivo en el Nuevo Testamento Trilingüe de la Biblioteca de Autores Cristianos".

Descanso

Moderador: Shigenobu KAWAKAMI

11 : 10—11 : 40 Masami MIYAMOTO: "Formación de las conjugaciones verbales de español para los diccionarios electrónicos y la clasificación de los verbos irregulares".

11 : 40—12 : 10 Takuya KIMURA, Hirotaka SENSUI y Atsuko TOYOMARU : "Relaciones entre el tono HLH* y la pausa--Un estudio fonético sobre noticias leídas--".

12 : 10—12 : 40 Noritaka FUKUSHIMA : "Sobre la enseñanza del modo subjuntivo".

Grupo de Cultura (D31)

Moderador: Fumihiko TAKEMURA

11 : 10—11 : 40 Tomoichi MASHIMA : "El Corrido--el grito de los chicanos en Estados Unidos".

11 : 40—12 : 10 Darío GONZÁLEZ : "El carnaval en Amerindia"

12 : 10—12 : 40 Hiroyuki KINJO : "El español en Filipinas durante un siglo de la tensión lingüística: en torno a la formación de la identidad nacional".

*La celebración de este congreso está subvencionada por la Grand-in-Aid for Scientific Research (Grand-in Aid for Special Purposes, 2004-5) del Ministerio de Educación, Cultura, Deportes, Ciencias y Tecnología de Japón.

日本イスパニヤ学会

2004年3月31日決算

2003年度会計報告

(2003年4月1日～2004年3月31日)

収 入	支 出
2002年度からの繰越金 4,416,160	
正会員会費 2,864,000	
賛助会員費 210,000	
海外会員会費 8,550	
BACK NO. 収入 18,000	
前受会費 20,000	
銀行預金利子 6	
2002年大会参加出版社よりの寄付金繰越金 68,000	
グラシアン基金(2004年大会援助資金) 602,500	
スペイン大使館(アベリャン先生来日援助金) 200,000	
	センター事務経費 451,689
	センター業務委託費 359,982
	学会誌・会報発行経費 942,797
	大会運営費 300,000
	アベリャン先生招聘・滞在費用および講演謝礼金 342,408
	会議開催費 31,120
	庶務委員経費 60,000
	通信・交通費 150,956
	手数料 2,625
	保管料 78,120

収入合計 ￥8,407,216

支出合計 ￥2,719,697

収 支 差 額 ￥5,687,519

会計委員 角田哲康

監査の結果、異常なきものと認めます。

2004年 11月 13日

会計監査委員

寺崎英樹

2004年 11月 13日

会計監査委員

三好準之助

2003年度期末残高内訳	
学会事務センター預かり金	￥4,804,235
UFJ銀行普通預金	￥857,070
現 金	￥26,214
計	￥5,687,519

日本イスパニヤ学会
2005年度会計案

収 入

会 費 (8000円×350名)	2,800,000
------------------	-----------

計 2,800,000円

支 出

		2003年度
1. 学会誌・会報発行経費	100万円	942,797円
2. 大会開催費用	30万円	300,000円
3. 事務経費 (注1)	85万円	811,671円(注2)
4. 会議(理事会等)開催費用	6万円	31,120円
5. 庶務委員経費	6万円	60,000円
6. 通信・交通費 (注3)	25万円	150,956円
7. その他	15万円	

計 267万円

収支差額 13万円

注1 会費請求書、学会誌・会報等の郵送料、コピー代、事務通信費等

注2 学会事務センターに依頼していた事務経費および業務委託

注3 理事会開催等に伴う庶務委員等の交通費、関連する編集作業および郵送料金、学会事務センターに依頼しない郵送料金、その他

作 成
会計委員 角田哲康

2004 年度日本イスパニヤ学会第 50 回学会創立 50 周年記念大会会計報告
50 周年記念の講演者招聘および HISPANICA の CDROM 作成費用を含めています。

収入

グラシアン基金	¥602,500	昨年度繰込済
大会開催費用予算	¥300,000	
科研費補助金	¥700,000	
南山大学補助金	¥200,000	
懇親会費	¥560,000	
協賛金 (教材展示出版社から)	¥80,000	
収入計	¥2,442,500	

支出

科研費補助金分	会場用花	¥5,000
	講演者 1 名分航空券	¥416,632
	講演者交通費東京-名古屋	¥21,560
	講演者宿泊費京都	¥120,330
	講演者宿泊費名古屋	¥47,080
	講演者名古屋-関空交通費	¥17,460
	講演者名古屋交通費	¥6,180
	大会案内発送用データ処理費	¥21,000
	大会案内郵送料	¥39,130
	大会受付用コンピュータ処理費	¥1,050
	大会準備用コピー代 (カード)	¥5,000
	振込手数料	¥210

科研費分計

¥700,632

南山大学補助金分	文具	¥367
	ゴミ袋	¥188
	葉書	¥21,350
	ファックス	¥60
	ネームタグ	¥7,560
	プログラム等印刷	¥58,800
	Mac 出力 パネル加工	¥3,675
	ネームカード印刷	¥12,600
	CD プレス	¥95,400

南山補助分計

¥200,000

グラシアン+	講演者 1 名分航空券	¥416,632
大会開催費用予算	謝礼金(視聴覚センター職員)	¥3,000
	大会運営者食事	¥37,290
	CD 作成費	¥547,200

グラシアン+学会分計

¥1,004,122

懇親会分	懇親会費用	¥424,146
	学生アルバイト	¥128,000
	茶菓等	¥8,950

懇親会分計

¥561,096

支出総計	¥2,465,849
-------------	-------------------

収支差額	¥-23,349
-------------	-----------------

講演者の東京での宿泊費交通費は、上智大学イスパニア研究センターの補助を受けました。

日本イスパニヤ学会 2005年度第1回理事会議事録

2005年5月15日(日) 13時～16時

愛知県立大学サテライトキャンパス(愛知県中小企業センター)

出席: 片倉充造、木村琢也、斎藤文子、佐竹謙一、清水憲男、竹村文彦、田尻陽一、中岡省治、堀田英夫、山崎信三、Antonio Ruiz Tinoco (庶務委員: 糸魚川美樹、塚原信行)
欠席(委任状): 柳沼孝一郎、大高保二郎、角田哲康、川上茂信、西川喬

審議事項

- 1) 議事録確認 2004年11月13日第3回理事会、同日2004年度総会、メールによる臨時理事会記録

第3回理事会議事録における「山崎信」を「山崎信三」に訂正のうえ各議事録了承。

- 2) 新入会員 入会希望者

安保寛尚 AMBO,HIRONAO 大阪外国語大学、 B イスパノアメリカ

折井善果 ORII,YOSHIMI 東京大学大学院総合文化研究科、 B C スペイン

有村理恵 ARIMURA,RIE UNAM、 D E F イスパノアメリカ

安田圭史 YASUDA,KEISHI ナバラ大学大学院、 D スペイン

前田明美 MAEDA,AKEMI 南山大学大学院国際地域文化研究科、 B スペイン
ESPARZA CELORRIO,SANTIAGO 関西外国語大学、

A スペイン、イスパノアメリカ

GARCIA,ANA ISABEL 関西外国語大学、 A B スペイン

以上、 7名入会了承。

(退会者: 野間一正、橋本啓子、野々山真輝帆、木原太源、藪中暁、PRIETO,PAZ)

竹村理事から申し込み時点での受付通知の必要性の意見が出された。

- 3) 今年度(2005年度)大会について

神田外語大学 〒261-0014 千葉県千葉市美浜区 若葉 1-4-1

大会委員長: 柳沼 孝一郎 理事

日程: 10月8日(土)・9日(日) 以上、了承。

堀田会長から、研究発表の申込要項(案)(大会案内)文面については理事会メーリングリストで了承を得て、ただちに送付作業を行う旨が説明された。講演者について現時点で計画が無い。講演者について提案を募る。神田外大から30万円を限度に補助金が出る可能性があるとのこと。学会予算は30万円が組んでであると説明された。

- 4) HISPÁNICAについて

田尻編集長より第49号原稿応募状況について、文学8、言語6、文化0、合計14本の投稿があり、直ちに査読作業に入るとの報告がなされた。査読者選定のためレジュメの必要性について、査読者と編集長との権限分担について等、種々審議した。

- 5) 会報(次号第9号)について

山崎理事から、次号の内容について、前々会長の小林宏一氏に巻頭言執筆依頼等、詳細な説明があった。

- 6) 事務委託先について

斎藤理事から、「大学生協学会支援センター」「株式会社ガリレオ」等の見積もりおよび事業者について説明がなされた。

さらに細かい部分をつめ、委託内容を明確化した上で、ガリレオと交渉し、次回大会で提案し、総会での承認を得た後、本契約とする。また、会員の会費支払状況管理と住所管理について、大会まで仮契約としてガリレオに委託することについて、種々審議の結果、異議なく承認された。

学会誌の作成、発送については、今年度も、弘学社に継続して委託することの確認がされた。

7) 会員名簿（住所録）作成について

理事会の決定に基づき、学会事務センターに委託してあったが、破産のため中断している会員名簿作成について、あたらしい事務委託先に依頼するか、名簿の作成自体を取りやめるかどうか、種々審議の結果、紙媒体による名簿作成が了承され、委託先候補として(株)ガリレオを検討することを承認された。印刷する名簿には、内部資料であるため外部には出さないよう明記するべきとの意見が出された。

8) 会員連絡先提供依頼への対応について

会員データは、依頼があっても本人の了承なければ提供しないこと確認した。本学会の趣旨にあう研究助成金・奨学金の募集案内、学会・研究会の案内等については、会報の記事として広報を個別に考えることとなった。

9) 諸規程の整備について

9-1) 会則(2004年11月13日総会改訂承認)、HISPANICA48掲載

(改訂案)第2条 事務局所在地の改訂、第7条第3項「理事 若干名」を「理事16名(会長、副会長を含む)」、第9条第7項および第8項、「任期満了後、在任期間後に被選挙権を回復する。」を追加。付則の(理事の数および第9条第4項についての申し合わせ)1, 2, 3を削除。

継続審議とした。

9-2) 投稿規定(2004年11月13日理事会改訂承認)、HISPANICA48掲載

田尻編集長から論文の原稿枚数を「15 ページ以内」から「20 ページ以内」にすることが提案され、了承された。

9-3) 著作権規程(2004年11月13日総会承認)、HISPANICA48掲載

改訂しないことが確認された。

9-4) 理事及び監査選挙内規

(改訂案)会則表記にあわせ「内規」を「規定」とする。国外会員にも選挙権、被選挙権を認める。東西選挙区を廃止し、全会員が全会員から理事、監査を選出する。会長兼代表理事の選出についての内規を加える。あるいは、会長兼代表理事の選出についてを含める。

会長兼代表理事という職名を「会長」という意見、選挙区を全国区(単一選挙区)にすることについて賛成意見が出され、種々審議し、継続審議とした。

9-5) 編集委員会の申し合せ事項(2004年11月13日理事会改訂承認)

改訂すべき点があれば次回理事会以降で提案を行うことが確認された。

9-6) イスパニカ審査要綱

改訂しないことが確認された。

9-7) 寄贈図書の取り扱いについての申し合せ事項 (案)

寄贈図書の取り扱いについての申し合せ事項

1. 本学会宛寄贈を受けた図書は、広く利用の便を図るため、この申し合せによる取り扱いをする。
 - 1) 会長兼代表理事が指定する大学等研究機関の図書館に寄贈し、所蔵してもらう。書名等と受入れ図書館については、会報等で会員に通知する。
 - 2) 所蔵期間、閲覧方法、所蔵期間終了後の処置については、前項の寄贈を受入れた大学等研究機関の図書館の定めるところによる。
 - 3) 二つ以上の大学等研究機関の図書館で寄贈を受け入れてもらえなかった図書については、会長兼代表理事の在任期間中事務局に保管し、任期終了後の処置を会長兼代表理事に一任する。

2005 年度第 1 回理事会 (5 月 15 日) で承認。

異議なく了承された。

10) 和解交渉委員会からの和解交渉参加の依頼について

第 3 回債権者会議等の報告の後、種々審議の結果、和解に応じない、法的追求はしないという 2005 年 1 月理事会決定の回答を確認し、変更しないこととした。

11) その他

- (1) 関係団体との担当事務 地域研究学会連絡協議会：継続審議。
- (2) 第 2 回理事会日程案： 第 1 候補：9 月 18 日(日)(大会 3 週間前)として、大会開催校神田外語の柳沼孝一郎理事のご都合をたずねた後、決定することを了承。
- (3) 次回理事会で、大会プログラム、総会の議案、予算案等を審議する。堀田会長から、大会発表者で常勤のない会員へ交通費補助ができるような奨励賞の創設について、こんどの予算案審議に関連して議論いただきたいむね言及があった。

.....

メールによる臨時理事会審議・報告事項抜粋

(2004 年度第 3 回理事会後、2005 年度第 1 回理事会までの間)

- 2004 年 11 月 16 日 塚原信行庶務委員就任の報告
12 月 13 日 科研費実績報告書にあわせ研究発表ハンドアウト送付の報告
同日 著作権規程のスペイン語版作成の報告
12 月 17 日 入会審議・了承
DIEGO MIGUEL, MARIA SUSANA 所属：琉球大学 専門分野：言語、経済、スペイン
TAPIZ, JOSE：所属：関西外国語大学 専門分野：歴史
12 月 26 日 HISPANICA 定期購読者への送付文書について報告
- 2005 年 1 月 9 日 地域研究学会連絡協議会から日本学術会議への要望書審議・報告
1 月 19 日～27 日 破産事務センター和解交渉委員会への回答・審議・了承
「和解に応じない＝和解金放棄、法的追求しないこと表明」
3 月 23 日 破産事務センター元専務理事今野省造氏破産手続開始通知書について報告
4 月 4 日 理事の所属先での連絡先データ提供依頼
4 月 22 日～27 日 2005 年度大会、開催校、日程提案 (柳沼理事)
5 月 2 日 和解交渉委員会からの和解交渉参加の依頼文書の報告
5 月 3 日 HISPANICA 投稿論文報告と査読について提案 (田尻理事)

【第3回スペイン語国際大会報告】

III Congreso de la Lengua (Rosario – Argentina)

送信者 : Paula Letelier (2004 年 12 月 13 日)

Como ya todos hemos leído se realizó en Rosario, Argentina, el III Congreso de la Lengua, uno de los grupos de discusión era sobre la enseñanza del español en el mundo. Me parece oportuno leer el mensaje que envió la Dra. Marta Baralo, coordinadora de este panel, dando a conocer las conclusiones del panel.

Resumen del Panel 3.5

La enseñanza del español en el mundo : hacia una acción coordinada

La lengua española vive un momento de expansión y de afianzamiento sociocultural y económico, por lo que es objeto de enseñanza y de aprendizaje para muchos millones de hablantes nativos y no nativos. Las investigaciones demuestran a las claras que la instrucción en la lengua, además de su uso, permite alcanzar niveles de dominio de la competencia lingüística comunicativa más altos, en corrección y adecuación, y en menos tiempo. De ahí que la mejora en la enseñanza, tanto en sus objetivos de políticas lingüísticas, como en sus aspectos metodológicos y en sus recursos didácticos, deba insertarse en las coordenadas que marcan la globalización y la internacionalización de las comunicaciones y de los mercados.

Para ello necesitamos un marco global y común, que permita la coordinación internacional de las acciones, relacionadas al menos con tres aspectos tratados en nuestro Panel :

- a) La formación específica de los profesores de español
- b) La investigación y el diseño de caminos metodológicos y de instrumentos didácticos más eficaces para la enseñanza de la lengua
- c) El uso de las tecnologías de la comunicación al servicio de los que aprenden y de los que enseñan

Acciones coordinadas

Tenemos dos modelos de acciones coordinadas que ya se vienen realizando con grandes aportes para la internacionalización del español. Por un lado, las 22 Academias de la Lengua, que no sólo han consensuado un diccionario panhispánico de dudas, sino que se han comprometido a hacer lo propio con la nueva gramática; por otro, el Instituto Cervantes, con sus 45 Centros y Aulas repartidos por todos los continentes, su Aula Virtual de Español con más de 6.000 pantallas de actividades didácticas, su Centro virtual Cervantes, a disposición de cuantos participan en este empeño compartido de enseñar nuestra lengua.

Acciones coordinadas para la enseñanza del español en el mundo, como lengua nativa y como lengua no nativa, que podrían ponerse en marcha, según las

de los integrantes y del público virtual participante de/en este Panel :

1) Tomar como base de los diseños panhispánicos para la enseñanza de la lengua los documentos globales ya existentes, como el “Marco común de referencia europeo para la enseñanza, el aprendizaje y la evaluación de las lenguas”. No se trata de imponer una línea de trabajo, sino de especialistas de varios continentes y de variadísimas lenguas, y de concretarlo en diseños curriculares que recojan las peculiaridades y necesidades de cada entorno de enseñanzas en el mundo (D. Álvaro García Santa-Cecilia).

2) Integrar los esfuerzos de los Ministerios de Educación de los diferentes países de habla hispana en las políticas de ayudas y de lectores de español que se envían a los diferentes países de habla no hispana, con el propósito de converger, coordinar y potenciar los esfuerzos de estos Ministerios con los recursos de otras instituciones como el Instituto Cervantes, las Academias de la Lengua, las acciones culturales de las Embajadas, entre varias otras. El MEC español participe con una red exterior organizada a través de 18 Consejerías de Educación (que coordina a más de 1.000 profesores), y con el apoyo a la enseñanza del español a decenas de miles de estudiantes de diferentes niveles educativos, en variados países repartidos por todo el mundo, que incluyen programas de alfabetización y educación de adultos, profesores visitantes, auxiliares de conversación, centros de recursos y asesores técnicos (D. Javier Díaz Malledo).

3) Incorporar en los diseños de acción didáctica para la enseñanza del español las investigaciones realizadas en diferentes universidades del mundo que podrían constituir una RED en la que se recojan : trabajos con perspectiva histórica sobre la evaluación de las concepciones de la lengua y del aprendizaje y su influencia en los métodos, con perspectivas psicosocial, pragmática y didáctica (Doña Magdalena Viramonte de Ávalos); trabajos de diseño coordinado de programas de formación a distancia de profesores y de elaboración de estándares para la definición de objetivos, metodologías, sistemas de evaluación de la competencia lingüística comunicativa (Doña Martha Jurado); definición del papel de los recursos digitales y de los sistemas de comunicación telemáticos en todos estos procesos (D. Juan Pedro de Basterrechea).

【他学会の紹介】

PROGRAMA DEL XVII CONGRESO DE CANELA

Fecha : Sábado 28 y domingo 29 de mayo de 2005

Lugar : Universidad Sophia – Campus de Ichigaya (Tokio)

SÁBADO 28 DE MAYO

10:30~11:30 Reunión de la Junta Directiva (Aula 408)

11:30~12:30 Inscripción

12:30~13:20 Primera Asamblea General y Elección del Presidente (Sala AV)

13:20~13:30 Descanso

13:30~14:45 Conferencia Plenaria (Sala AV)

Bernardo Astigueta (Univ. Sophia, Tokio) : El espiritualismo latinoamericano y su perfil profético frente a la globalización

14:45~15:00 Descanso

15:00~17:30 Reunión por grupos

Grupo A : Literatura (Aula 202)

Jordi Juste (Univ. Ritsumeikan) : Los animales en las novelas de Baltasar Porcel

Grupo B : Pensamiento e Historia (Aula 203)

Darío González : Extraordinaria labor jesuítica en la Amerindia del siglo XVIII

Ignacio Aristimuño : La nueva gestión en la preservación y revitalización de los centros históricos de América Latina

Grupo C : Metodología de la enseñanza del español como lengua extranjera (Sala AV)

Daniel Quientero (Univ. Prefectual de Aichi) : Reflexiones acerca de la enseñanza de signos kinésicos, proxémicos y cronémicos en ELE para japonese

Mirna Franco (Univ. IULM. Italia) : Publicidad, lengua y didáctica : el mensaje publicitario en la enseñanza del ELE

17:50~20:00 Cena de Amistad (Campus de Yotsuya-Jochi Kaikan Piso 3, Sala 1)

DOMINGO 29 DE MAYO

9:30~11:00 Conferencia Plenaria (Sala AV)

José Eugenio Borao (Univ. Nacional de Taiwan) : La colonia japonesa de Manila en el contexto de la relaciones hispano - japonesas de los siglos XVI y XVII

11:00~12:00 Reunión por grupos

Grupo A : Literatura (Aula 202)

Franco Quinziano (Kioto Gaidai) : Miradas rioplatenses : España en la escritura de viajes de Manuel Gálvez y Manuel Ugarte

Grupo B : Pensamiento e Historia (Aula 203)

José Luis Velasco : El enigma del pueblo vasco y su lengua

Grupo C : Metodología (Sala AV)

Leticia Vicente : Reacciones de los profesores ante el *output* de los aprendices de lenguas extranjeras

12:00~12:30 Segunda Asamblea General y elección de la Junta Directiva (Sala AV)

12:30~12:45 Descanso

12:45~13:30 Informes por grupos y Clausura del Congreso (Sala AV)

Las editoriales estarán reunidas en la sala 204 sábado y domingo. La sala de encuentro-cafetería será la sala 206.

Este Congreso se celebra con subvención (año 2004) del Programa "Baltasar Gracián" Del Ministerio de Educación y Ciencia de España.

【他学会の紹介】

CANELA 第17回大会プログラム

日時：2005年5月28日（土）～29日（日）

会場：上智大学・市谷キャンパス（東京）

5月28日（土）

10:30～11:30 執行部委員会（408 教室）

11:30～12:30 受付

12:30～13:20 総会（その1）および会長選出（AV 教室）

13:20～13:30 休憩

13:30～14:45 講演（AV 教室）

Bernardo Astigueta（上智大学）：

「ラテンアメリカ観念論とグローバル化への展望」

14:45～15:00 休憩

15:00～17:30 分科会

A グループ [文学]（202 教室）

Jordi Juste（立命館大学）：「Baltasar Porcel の小説における動物」

B グループ [思想・歴史]（203 教室）

Darío González（桃山学院大学）：

「18 世紀のアメリンディアにおけるイエズス会の業績」

Ignacio Aristimuño（立命館アジア太平洋大学）：

「ラテンアメリカ歴史遺跡の保存復興に向けての新運動」

C グループ [外国語としてのスペイン語教授法]（AV 教室）

Daniel Quintero（愛知県立大学）：

「日本人対象のスペイン語教授法における動的・空間的・時間的ジェスチャーをめぐって」

Mirna Franco（IULM 大学、イタリア）：

「広報、言語、教授法：外国語としてのスペイン語教授法におけるメッセージ」

17:50～20:00 懇親会（上智会館3階：四谷キャンパス）

5月29日（日）

9:30～11:00 講演（AV 教室）

José Eugenio Borao（台湾国立大学）：

「16-17 世紀日西交流期間に見られるマニラにおける日系集落」

11:00～12:00 分科会

A グループ [文学]（202 教室）

Franco Quinziano（京都外国語大学）：

「ラ・プラタ地域住民の一瞥：Manuel Gálvez と Manuel Ugarte の旅行記に見るスペイン」

B グループ [思想・歴史]（203 教室）

José Luis Velasco：「バスク民族とその言語の謎」

C グループ [外国語としてのスペイン語教授法] (AV 教室)

Leticia Vicente : 「外国語学習初心者のアウトプットに対する教師たちの反応」

12:00~12:30 総会 (その2) : 執行部役員選出 (AV 教室)

12:30~12:45 休憩

12:45~13:30 各分科会報告、閉会 (AV 教室)

(備考) 204 教室 : 出版社の教材展示会場 206 教室 : 談話・喫茶・休憩室
本大会の開催にあたり、スペイン教育科学省グラシアン基金 2004 年度の助成を受けた。

【他学会の紹介】

京都セルバンテス懇話会 OTERTULIA CERVANTINA DE KIOTO

京都セルバンテス懇話会第 8 回大会 (大分) のご案内 —— スペインの風 in 大分 ——

日時 : 2005 年 6 月 18 日 (土) 午後 1 時より (12:30 より受付)

会場 : 大分県立芸術文化短期大学 (<http://www.oita-pjc.ac.jp/>)

大分市上野丘東 1 番 11 号 TEL 097-545-0542

(地図検索は右でも <http://www.mapion.co.jp/>)

・ JR 大分駅 ~ 大学 (徒歩 15 分)

・ 大分バス「駅前」から「上野」行きに乗り終点で下車 (バス約 10 分、徒歩約 3 分)

主催 : 京都セルバンテス懇話会

BUNGO・大分日本エスパニヤ協会

(www.oita-pjc.ac.jp/~ogawa/spain/spainhnew.html)

後援 : 大分合同新聞、大分放送 (申請中)、行路社

参加費 : 無料

13:00 (開会)

第 I 部 研究発表 / 講演 / 報告

13:20 研究発表 1 「モナルキーア・イスパニカは帝国であったか」

五十嵐一成 (札幌大学教授)

13:50 研究発表 2 「『ドン・キホーテ』のラ・マンチャ——アルガマシーリャ・デ・アルバについて」

野呂 正 (中央大学教授)

14:20 文化講演 1 「オリーブ油のあるスペイン風景」

渡辺万理 (スペイン料理文化研究所主宰)

15:00 (休憩)

15:10 報 告 「サンタ・アナ号の臼杵来航と日西交流——記念碑の建立を終えて」

浜田英敏 (BUNGO—大分日本エスパニヤ協会会長)

- 15:30 文化講演 2 「ビウエラとスペイン音楽——お話と実演と」
小川伊作 (大分芸術文化短期大学助教授／ビウエラ奏者)
16:10 文化講演 3 「スペイン宣教師たちと豊後」
16:50 (閉会)

第Ⅱ部 懇親・交流会 18:00～20:00 ごろ

会場：大分市・ホテルくれべ大分 (870-0021 大分市府内町 1-1-29)

<http://www.crevette-oita.com/>

(TEL 097-536-3000 FAX 097-535-2001)

問合せ先：京都外国語大学坂東省次研究室：〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6
fax.075-322-6246 (自宅 075-962-3669 fax 共),
または京都セルバンテス懇話会事務局
(楠本耕之 ph.077-529-0149 fax.077-529-2885) まで。

【他学会の紹介】

II SIMPOSIO INTERNACIONAL DE HISPANISTAS DE BEIJING

El Departamento de Español de la Universidad de Estudios Extranjeros de Beijing y la Asociación China de Enseñanza de Español y Portugués tienen el honor de invitarle a participar en el II Simposio Internacional de Hispanistas de Beijing, que se celebrará, con la ayuda de la Agencia Española de Cooperación Internacional (AECL), entre los días 22 y 24 del mes de agosto de 2005 en dicha universidad.

El simposio se desarrollará con dos reuniones plenarias y tres en grupos, en las cuales se leerán trabajos de investigaciones cuyos temas se centran en Lingüística Hispánica, Traductología entre el Chino y el Español, Comunicación Intercultural, Enseñanza del Español como Lengua Extranjera y el Mundo Hispánico Contemporáneo.

Los trabajos, redactados en español y en formato de Word, con tamaño de letra 12 de Times News Roman, deben entregarse antes del día 30 de abril de 2005 al comité organizador en forma electrónica e impresa, enviándolos, respectivamente, a los correos electrónicos bwxyxz@bfsu.edu.cn y lj6335@yahoo.com.cn y a la dirección de correspondencia:

SPANISH DEPARTMENT
BEIJING FOREIGN STUDIES UNIVERSITY
BEIJING XISANHUAN BEILU No2, 100089
BEIJING, CHINA

Contactos: Sr. Liu Jian, Sra. Xu Lei, Sr. Wang Lei
Teléfono: 0086-10-888163448 0086-10-88816435
Fax: 0086-10-88810397/ Correo electrónico: bwxyxz@bfsu.edu.cn

【催し物の案内】

Cultura española y Modernidad: Activo económico

12 y 13 de septiembre de 2005

Universidad Nanzan, 18 Yamazato-cho Showa-ku, Nagoya, Aichi

Plazas limitadas por orden de inscripción hasta completar el aforo

Inscripción gratuita – diríjase a: jornada@expo-int.com

Sociedad Estatal para Exposiciones Internacionales.

Pabellón de España (Spanish Pavilion), Global Common 3, EXPO 2005 AICHI

Ibaragabasama 1533-1, Nagakute-cho, Aichi, 480-1101 JAPÓN

<http://www.expoaichi2005.com/> Teléfono: 056 163 9050 Fax: 056 163 9051

Lunes 12

0. 9.00/9.30 Presentación de las Jornadas

Comisario General del Pabellón de España

Noboru Kinoshita, Universidad Nanzan

Jorge Urrutia, Director Académico del Instituto Cervantes

1. 9.30/10.20 La defensa del español y de la cultura hispánica

César Antonio Molina, Director del Instituto Cervantes

Vicente Verdú, Escritor, Diario *El País*

2. 10.20/11.10 La importancia económica de la lengua española

Antonio Roche, Editor

**Fernando Rodríguez Lafuente, Fundación José Ortega y Gasset, Director del
Suplemento cultural del Diario *ABC***

Kazuei Tokado, Universidad de Estudios Internacionales de Kanda

3. 11.40/12.30 Novela, Poesía y Teatro en la España de hoy

Ignacio Amestoy, Premio Nacional de Literatura Dramática

Fanny Rubio, Novelista y Poeta

Jorge Urrutia, Director Académico del Instituto Cervantes

**4. 12.30/13.20 Cuarto Centenario de la publicación de la Primera parte del
*Quijote***

Manuel Fernández Nieto, Universidad Complutense de Madrid

Blanca Berasátegui, Directora del Suplemento Cultural del Diario *El Mundo*

Katsuyuki Oguiuchi, Universidad de Estudios Económicos de Tokio

Martes 13

5. 9.00/9.50

La enseñanza del español y las nuevas tecnologías

Juan Pedro Basterrechea, Instituto Cervantes

José Antonio Millán, Escritor y Especialista en Nuevas Tecnologías.
Hideo Hotta, Universidad Provincial de Aichi

6. 9.50/10.40 La evolución política e institucional de España
Antonio Rodríguez de las Heras, Universidad Carlos III de Madrid
Juan José Téllez, *Diario de Sevilla*

7. 11.10/12.00 La obra de José Ortega y Gasset y el pensamiento español
Francisco José Martín, Universidad de Siena (Italia)
Manuel Calderón, Director del Suplemento Cultural del Diario *La Razón*

8. 12.00/12.50 La cultura española actual, valor económico
Jorge Urrutia, Director Académico del Instituto Cervantes
Llátzer Moix, Diario *La Vanguardia*

9. 15.00/15.50 Problemas del Hispanismo japonés
Noboru Kinoshita, Universidad Nanzan
Noritaka Fukushima, Universidad de Estudios Extranjeros de Kobe

10. 15.50/16.20 Clausura de las jornadas

19.30 *Concierto de Clausura*
Amancio Prada

20.40 *Cocktail de Clausura*

.....

【新刊紹介】

アウレリオ・アシアインほか編訳『現代メキシコ詩集』土曜美術社出版販売
石井 崇『南スペイン、白い村の陽だまりから』東京書籍
伊集院 静『美の旅人』小学館
碓 順治『現代スペインの歴史』彩流社
大阪外国語大学ラテンアメリカ史研究会訳『ラテンアメリカの歴史』世界思想社
Carlos Rubio ほか編『クラウン和西辞典』三省堂
原 誠ほか編『クラウン西和辞典』三省堂
エンリケ・クラウセ（大垣貴志郎訳）『メキシコの百年 1810-1910 権力者の列伝』
現代企画室
岡住正秀他編『たたかう民衆の世界—欧米における近代化と抗議行動』彩流社
京都外国語大学イスパニア語学科『『ドン・キホーテ』を読む』行路社
佐竹謙一『ラテンアメリカ現代演劇集』水声社
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
国本伊代ほか編『パナマを知るための55章』明石書店

田中 高編著『エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアを知るための45章』
明石書店

田中三郎『フィデル・カストロー世界の無限の悲慘を背負う人』日本経済評論社
南山大学ラテンアメリカ研究所『ラテンアメリカの諸相と展望』行路社

西川和子『スペイン フェリーペ2世の生涯』彩流社

パブロ・ネルーダ（野谷文昭訳）『マチュピチュの頂』書肆山田

坂東省次/ダニエル・キンテロ『スペイン語で伝えるカード&メールのメッセージ』
国際語学社

小波津由美子/坂東省次『教育現場のスペイン語』国際語学社

ホセ・マルティ（青木康征・柳沼孝一郎訳）『ホセ・マルティ選集2 飛翔する思想』
日本経済評論社

平岡蘭子『ダーリンは、スペイン人』三修社

ホセ・アントニオ・ミリャン（安藤哲行訳）『まだ名前のない小さな本』晶文社

メキシコ大使館編『条約から条約へー墨日関係史ノート』

ラモン・サンペドロ（轟志津香ほか訳）『海を飛ぶ夢』アーティストハウス

G. ロビラ『メキシコ先住民 女性の夜明け』日本経済評論社

吉田栄人編著『メキシコを知るための60章』明石書店

【原稿募集】

本誌『会報』の原稿を募集しています。特に分野は問いません。下記のような項目など、スペイン語圏に関する原稿をどしどしお寄せください。

- ◇ 国内外の学会の案内と報告
- ◇ 国内の学術講演会・行事の案内と報告
- ◇ スペイン語圏に関する新刊書（和書・洋書）の紹介
- ◇ その他

（使用言語：日本語もしくはスペイン語）

（原稿分量：原稿用紙四百字詰 1000～1400 字）

【編集後記】

かつて、「狭い日本そんなに急いでどこへ行く」という標語があった。これには車の交通事故防止・減少を願う思いが痛いほど込められている。先の JR 西日本福知山線脱線事故での 100 名を超す死者の報に触れ、40 年ほど前の記憶が蘇った。事故原因の一つに、「前の停車駅でのオーバーランによる遅れを取り戻すためのスピードアップ（高速）が、カーブを曲がりきれないほどの状態に車両を傾けてしまった」ことが挙げられているが、これは一刻を争う神経質な日本ならではの事故ではなかろうか。時間的な遅れを寛容に受け入れるスペイン語圏諸国ではあり得ないことかも知れない。

折につけて、今時パソコンを操れないようでは時代遅れも甚だしいと、不器用な自分を鼓舞してみるが、やはり身が入らない。何も伝わって来ない。従ってまた編集作業に手間取りましたことお許し下さい。それにしても、たまに届く友らからの肉筆の便りはなんと限りなくその肉声をも伝えてくれることでしょう。

（山崎信三）